

2015年4月28日

三井化学株式会社

東西エチレン製造設備の累計生産量 市原工場 2000 万トン、大阪石油化学 1500 万トンを達成 ～累計 2000 万トン達成は国内エチレン製造設備で初めて～

三井化学株式会社（社長：淡輪 敏）は、千葉ケミカル製造有限責任事業組合（出光興産 50%、当社 50%）の弊社市原工場（千葉県市原市）2UPC プラントでのエチレン累計生産量 2,000 万トン、大阪石油化学株式会社（当社 100%）泉北工業所（大阪府高石市）でのエチレン累計生産量 1,500 万トンを達成致しました。

エチレンは原油から得られるナフサの熱分解により生産され、包装被覆資材や自動車ガソリントンクに使われるポリエチレン樹脂のほか、ポリエステル繊維やペットボトル、洗剤の原料として用いられ、人々の生活に幅広く役立っています。また、熱分解の過程で得られるプロピレンも自動車バンパーや包装被覆資材に使われるポリプロピレン樹脂のほか、塗料、接着剤などの原料として用いられます。



市原工場のエチレン製造設備をバックに

市原工場のエチレン製造設備 2UPC プラントは、1978 年 4 月に年産能力 40 万トンで生産を開始し、現在は年産 55 万 3,000 トンに拡大しています。去る 4 月 13 日に、国内エチレン製造設備では初めてエチレン累計生産量 2,000 万トンを達成致しました。

また、大阪石油化学のエチレン製造設備は、1970 年 2 月に年産能力 30 万トンで稼働を開始し、現在は年産能力 45 万 5,000 トンに拡大しています。昨年 7 月に、エチレン累計生産量 1,500 万トンを達成致しました。

当社は、これからも安全・安定運転に努め、顧客への供給責任を果たしていくとともに、東西エチレンセンターの効率的な稼働を推進していきます。

以上

<本件に関するお問い合わせ先>

三井化学株式会社 コーポレートコミュニケーション部（TEL：03-6253-2100）